～あした、転機になぁれ！～

美ら島から…哲楽さびら。

紀々（きき）
哲楽家。那覇市出身。1998年に早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修を卒業。「自ら考え、自ら動く力を磨く社員研修を」との依頼を受け、「哲楽のチカラを、笑顔のチカラに」をテーマに、さまざまな企業現場でサポートを行っている。特に「若手リーダー・女性スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくり」を哲楽する研修は、好評。現在は、沖縄の表現で「Let's哲楽」を意味する「哲楽さびら。」を合言葉に、沖縄発で職場に哲楽習慣・風土を広めるべく活動を展開中。

職場を元気にする哲楽レシピ その八

発見！～笑顔が生まれるキーワード～

「ワとワとワハハ」が足りない職場

もしかしたら…笑顔について、私たちは、複雑に不自然に考えすぎているのかもしれない。

笑顔の生まれる職場環境づくりについて、ご相談をいただく中で、そう感じるようになりました。「笑いの研究者は、意外と笑わない人が多い」ということを、大学の先生からうかがったことがあります。笑いたいのではなく、笑いのもたらす効果に関心があるから、とのこと。ナルホド納得でした。

では、私はどうだろう？

そう考えてみたところ、自分自身はその反対であることに気がつきました。笑いのもたらす効果は〝ある！〟と信じている〟だけで、科学的に調べたいという気持ちはあまりありません。一方で「理屈はどうあれ、笑顔になってもらいたいし、自分自身も笑顔になりたい」という気持ちは人一倍強い。

「どうしたら笑ってくれるのか？」をオタク的に、いつも関心を寄せている〝笑顔オタク〟の私が、職場の笑顔と元気度アップのために見つけたキーワードがあります。

それは「ワ（話＝対話する）」と「ワ（輪になる）」と「ワハハ（笑う）」。

何となく個人プレーになってしまっている、辞める人が多い、職場に元気がない、笑顔がない…といったご相談がある場合、実際に職場にうかがったり、お話を聞かせてもらうと、「ワとワとワハハ」が足りないことがとても多いのです。

無言のまま、それぞれが自分の作業に没頭（没頭しているようにアピール？）し、対話どころか、あいさつさえ交わさない。

テーブルを目の前にした会議では、コの字型に輪になっているように見えなくもないけれど、みんなが資料に目線を落とし、気持ちはまったく輪になっていない。「今日も一日、笑顔で」と朝礼で申し送りするリーダーの顔にも、それを聞くスタッフの顔にも、笑顔はない。

そんな場面を、いくつも見てきました。「笑顔を出しなさい！と毎日朝礼で怒っていました。それではいけませんね」と、講演終了後に、ある社長さんが話かけてくださったこともあります。

楽しい職場では自然と笑顔になる

イキイキ元気になった職場には、共通点があります。それは、こまめに言葉を交わす風土、こまめに話し合い、活発に意見を交わす光景、そして、リーダーをはじめ、全体に広がるユーモアと笑顔。

数字が上がったお店にインタビューに行くと「仕事（または職場）が楽しい」という声が、ほぼ100％。楽しければ、人は自然と笑顔になる。笑顔は、目指すものではなく〝気持ちの表れのひとつ〟。

そう確信しました。笑顔をつくるよりも「楽しい職場づくり」と、「仕事を楽しく取り組む姿勢づくり」が大切だと感じています。

そこで生まれたのが、【楽笑合一（らくしょう・ごういつ）】という言葉。私が大学で学んだ陽明学の【知行合一（ちこう・ごういつ）】にヒントをもらいました。楽しければ、自然に笑うものであり、これは本来バラバラに考えたり、努力するべきものではない。つまり、笑顔がないのは接遇の問題ではなく、「楽しく働けていない」ことが問題。実はこちらの問題の方が深刻であることも多く、この視点から取り組むことが大事だと思うのです。

もしもあなた自身が笑顔がないと思ったときには、是非「どうしたら笑顔が出せるか」ではなく、「楽しく仕事ができているか？」「この仕事の楽しいところは何だろう？」「もっと楽しく働くために、どんな工夫ができる？」「楽しさを消してしまっている要素は何？」という風に〝楽しさ〟を真ん中に哲楽してみてください。

接客のプロなのに笑顔がないのはけしからん！と言われるかもしれませんが、楽しくないのに笑えないのは、ある意味で自然なこと。10年の試行錯誤を経て、たどり着いた根っこです。

あした…転機に、なぁれ！

職場で
あなたは…
笑っていますか？
紀々